

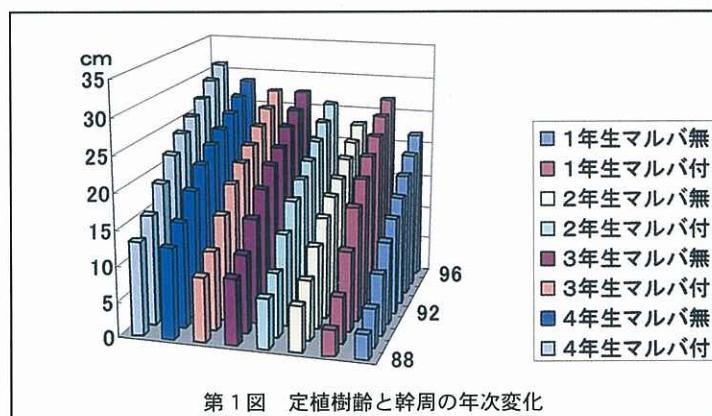
わい性台樹の適正定植樹齢

研究のねらい

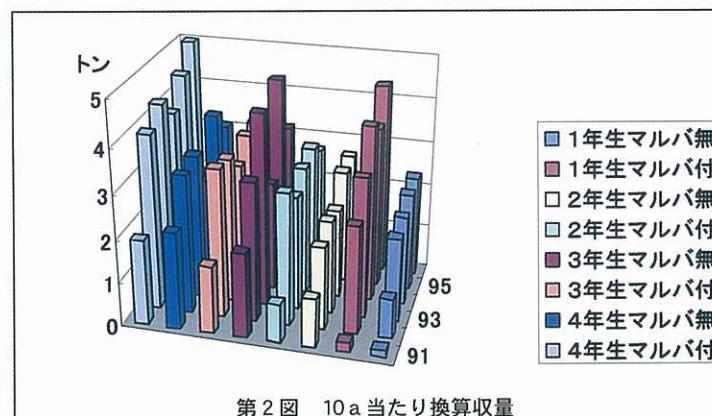
低位生産園や急傾斜地の解消、地力の増強など総合的なリンゴ園地の若返りを図るため、改植事業が行われている。そこで、早期成園化のために、苗木の樹齢の違いと栽植後の生育、収量を検討した。

研究の成果

定植時のわい性台苗木の適正樹齢は、早期に収量を上げる観点から見れば、マルバ台付きわい性台の1年～2年生苗か、わい性台自根の3～4年生苗の大苗が適当であった。しかし、マルバ付きでは成木に達したときに強樹勢となって樹高が高くなりすぎること、またわい性台自根の4年生苗では、苗木の養成に際して、定植時と同じ栽植距離が必要となり、また移植時に機械を必要とするなどの問題があることから、わい性台自根の3年生苗移植が最も有利と考えられる。



第1図 定植樹齢と幹周の年次変化



第2図 10a当たり換算収量

発表資料

- 長内敬明 (1996). リンゴわい性台苗木の定植樹齢が生育及び収量に及ぼす影響. 園学要旨 (東北): 33-34.
- 長内敬明 (1995). リンゴ苗木の定植樹齢. 青森農業 46 (10): 56-58.